

⑦事例紹介（5日/10:50~11:20） ~学校のよりよい利用形態に向けて

## 学校教育現場の視点から

川越市立新宿小学校  
校長 平岡 健

はじめに

- ・学校教育に応じる 博物館経営の観点
- ・博物館の利点

### 1 本校の博物館利用

※ 利用状況は資料参照

#### (1) 事前指導

- ・しおり、ワークシートの作成
- ・地図の添付
- ・「かしのあじ」（課題解決 主体性 安全 時間）
- ・グループ指導 役割と課題の明確化

#### (2) 事後指導

- ・グループでの情報交換→分類・整理（思考・判断・表現）
- ・お礼の手紙

### 2 博物館を活用しにくい要因

#### ① 時間的余裕

○博物館に足を運ぶとなると・・・

- ・下見に行かないと
- ・見学の資料を作成しないと
- ・見学の手続きをしないと
- ・見学後のまとめをする時間を確保しないと
- ※年間の授業時数 ※年間行事予定
- ・安全確保や天候による変更の準備をしておかないと

#### ② 事務量

- ・県内の場合は校外行事承認届、県外の場合は校外行事承認願を作成し、教育委員会に届け出ないと…（20日前までに 県外は1か月前）
- ・入館料がかかる場合には、前月の学年便りで記載し、集金日を設定し集金する。業者に依頼する場合に業者との打ち合わせ、支払い事務が生じる。
- ・公共の交通機関を利用する場合には、団体券等の購入手続きをする。
- ・博物館との手続きや児童用ワークシート等を作成する。

#### ③ 指導の困難さ

- ・教科等で博物館を利用する場合については、実際に見学に行くとなると通常の授業と違って学習の展開や単元計画を変更するなどの必要がある。
- ・教員自身の博物館の利用や資料等についての知識や技能が十分でない。

※ 近年若手教員の増加

- ④ 学習内容
- ・学習指導要領や学習内容に合わせた展示がほとんどない。
  - ・子どもの発達段階に合わない。
- ⑤ 教育課程の管理
- ・年間指導計画に位置付ける作業を教育課程検討委員会を経て決定し、前年度に指導計画に位置付けておく必要がある。
  - ・校長の了解を得る必要がある。
- ⑥ 経費

博物館の活用のしにくさアンケート

本校職員へのアンケート（H25年7月実施）

利用形態	教科等	1 時間的 余裕がない	2 事務量 が増加する	3 指導の 難しさ、指導 しにくい	4 学習内容 が合わない	5 教育課 程への位 置づけ
展示	社会科や理科などの 教科	2.35	2.15	1.65	1.50	1.90
	総合	2.45	2.20	1.80	1.95	2.10
	特別活動	2.45	2.30	1.95	2.00	2.10
出前授業	社会科や理科などの 教科	2.15	2.30	1.50	1.60	1.95
	総合	2.15	2.15	1.55	1.85	1.95
	特別活動	2.00	2.35	1.95	1.85	2.00
資料の貸し出し	社会科や理科などの 教科	2.00	2.20	1.35	1.85	1.80
	総合	2.20	2.20	1.70	1.65	1.85
	特別活動	2.15	2.15	1.85	1.80	2.00
ホームページ	社会科や理科などの 教科	1.40	1.40	1.40	1.65	1.45
	総合	1.40	1.15	1.45	1.35	1.45
	特別活動	1.40	1.40	1.45	1.40	1.50

大変思う（3点） 思う（2点） あまり思わない（1点） 思わない（0点）

※ 全体的な傾向は前任校と変わらないが、教科等での利用の抵抗感が減少してきている。

### 3 博物館の学びを有効にするために

○活用しやすいところから始める

○打ち合わせを効果的に行う

※若い教員の増加 展示を見ても学習内容とのかかわりでとらえることができない。

○教育課程に位置付ける

○学びをつなぐ 博物館→学校 学校→博物館 家庭→博物館

### 4 管理職から見た博物館活用

○安全の確保

○学習効果の向上

○教育課程への位置づけ

○持続可能性

○経済的な負担が少ない

○指導力の向上

終わりに

学校から博物館に対する要望、博物館から学校に対する要望  
「相手を変えることは難しいが、自分と未来は変えられる」